

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート矢切(2階)		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-5-12 みゆきビルbizcube7F		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中に位置し、駐車場にある花壇でガーデニングを行い、季節の花を植えることにより入居者様に季節感を味わっていただいている。近所のスーパーやお花屋にも入居者と共に行き買物や交流をしていただいております。地域住民との交流も積極的に行っている。また、地域で行われるお祭りや会食会にも積極的に参加すると共に内部の季節の行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。家庭的な環境の中でお客様ということを忘れず、その中で家族の一員として、自宅でこれまで当たり前のようになってきたことがガーデンコートでもできるような環境づくりをしている。地域で行われるお祭りや会食会にも積極的に参加すると共に内部の季節の行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の経営理念、社是、心得、また、事業所としてどのように取り組んでいくかを職員に伝え、職員間で方向性を一つにして日々の支援の充実に向け取り組んでいる。日々の支援では、利用者が居心地良く生活できるように支援するほか、地域との交流も着実に前進させている。主な交流では、地区社会福祉協議会が主催する「ふれあい会食会」に利用者が参加をし、地域の方との交流が深まるよう支援しているほか、地域行事(お祭りや盆踊り)の参加、地域商店の活用等を通じて交流を図っている。今後に向けては、外部研修を有効に活用し、職員のスキルアップを図り支援の充実に向きに取り組む姿勢が確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是、経営理念、心得を掲げ、年1回会議にてひとつひとつの意味やガーデンコート矢切としてどのようにして実現していくかをスタッフで話し合い、共有している。また、入社時にも説明し、全職員が共有出来るようにしている。	法人の社是、経営理念、心得を事務所に掲示しているほか、年度初めの拠点会議において、法人や事業所の目指している事を職員間で再確認し、職員一人ひとりの理解が深まるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の盆踊りやお祭り、会食会等に参加し、交流を図っている。また、ホーム内の行事にボランティアをお呼びし、フラダンス等行っていただき交流を図っている。	地域とのつきあいでは、地区社協が主催する「ふれあい会食会」に利用者が参加をして交流が図れるよう取り組んでいる。また、地域のお祭りや盆踊り、地域商店の利用などを通じて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方に見学に来ていただき、グループホームの生活の内容や認知症高齢者について説明をさせて頂き、理解を深めていただいている。また、困りごとのある地域の方には実際に見て頂き細かい説明を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの運営状況や行事報告、地域活動の参加内容などを報告させていただいている。参加者の方々からのご意見を頂き、サービスの向上を図っている	運営推進会議には、地域包括支援センター、家族の方が参加され、2カ月に一度のペースで実施している。会議では、事業所内の取り組みの報告のほか、参加者からの質疑応答を通じ、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、地区在宅介護支援センター職員に運営推進会議に参加していただき、取り組み等伝え、協力しながら運営をしている。また、市の担当者とも必要に応じて連携を図りサービスの質の向上に取り組まれている。	市の担当課との連携においては、運営上疑問が生じた際などは担当者に連絡し指示を仰ぐようにしている。市の担当課以外にも、地域包括支援センター、在宅介護支援センターと連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修に随時参加して理解を深め、社内研修も最低年1回は開催し、理解を深めている。玄関は、施錠しているが要望があるときには職員が明けて自由に出入できるようにしている	身体拘束廃止に向けた取り組みでは、外部の「身体拘束廃止基礎研修」に参加をし、事業所内の会議を通じて研修内容を伝達している。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修に参加しており、虐待について理解を深めると共に伝達研修を行い、虐待について職員全員が理解すると共に虐待を防止している		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、成年後見制度等必要な方がいた際、関係機関と相談し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に説明をし、途中質問があればお答えしている。不安や疑問をなくしながら説明し、理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問された際に声をかけ、お客様の状態を伝え、意見や希望を引き出すようにしている。	家族等が事業所に意見等を表出できる場としては、法人からの「顧客満足度調査」があり、定期的を実施している。また、面会やケアプラン更新時において事業所側から意見を直接収集し、いつでも意見等が言える環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議開催時に職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。その他にスタッフとの面談を定期的に行い、意見を聞く機会を作っている	職員からの意見については、毎月の拠点会議を中心に意見を収集している。また、半年に一度の個人面談の実施や日常的にも意見を収集し、職員からの意見を日々の支援に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や勤務状況を把握しており社外研修への積極的な参加を促し、スキルアップややりがいや向上心を持って業務に就けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修については、年度初めに計画を立て研修が行われており、社外研修の情報を拠点に送り、個々の知識や立場にあった研修に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、法人内系列の他のホームとの連携を図りながら事例を共有し、サービスの質の向上につなげている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様にも見学に来ていただき、ホームの雰囲気を感じていただき、時間をかけてコミュニケーションを図り安心を確保した関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来ていただいた際に時間をかけて不安なことや要望等お聞きし、不安を取り除いていただいてからサービス利用していただいております信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様の要望や不安なことをお聞きし、適切なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が一緒に身の回りのことや日常生活の活動を行なうようにしており、介護する側、される側の関係ではなく、家族のような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化がある場合はもちろん、普段の様子も随時報告し、必要に応じて面会して頂き、連携を図りながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との外出やご家族様との外出、面会を自由にしており、関係が途切れないよう支援している	馴染みの人や場との関係継続に向けた支援では、友人との外出や家族の協力を得て、自宅へ帰省する等、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握しており、席の場所等工夫し、孤立しないよう支援している		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際、相談に乗ることを伝え退所後も連絡させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日常生活の会話などからご本人の希望や要望を把握し、沿えるよう努めている。困難な場合は、ご家族様へお聞きすると共に日常生活の観察を行い、検討している	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメント時に一人ひとりの課題を抽出し、現状の要望や課題を踏まえ、ケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言葉やご家族からの情報などにより把握するよう努めている。情報を文章にまとめ職員へ配布し、把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りで日中、夜間帯の一人一人の状態を報告し、全職員が把握できるよう努めている。心身の状態についても観察の徹底や関わりを多くし把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との会話やご家族様との話し合いを行い、要望やアイデアを取り入れた介護計画を作成できるよう努めている	アセスメントで課題抽出後、原案を作成し、担当者会議において職員の意見を収集し、本プランを作成している。ケアプランの内容については毎月モニタリングを実施し、掲げた目標に対する達成状況を確認している。	ケアプランは家族の同意を得ているが、家族の同意日がケアプラン作成日から離れているものも見受けられるため、今後改善が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ介護計画の要望を取り入れ、その内容について実践、結果の記録を残し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望や状況が変化した場合は、相談をしながらサービスを決め、柔軟に取り組んでいる		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員に働きかけ活用できる地域資源の把握に努めている。また、近くの公園へ散歩に出かけたり、会食会に参加し地域資源を利用し、楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしている。連携医療機関を希望された場合は、週に1度の往診と夜間、急変時にも対応していただき、ご家族へその都度連絡をしている。	利用者が適切な医療を受けられる体制としては、ホーム提携先医療機関をかかりつけ医としており、週に1度往診が受けられる体制としている。提携先とは24時間連絡が可能であり、緊急時にも迅速に対応できる体制としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の連携は図っておらず、提携医療機関の医師と連携を図り、随時相談や指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった際にはサマリーを用意し提携医療機関より情報提供書をお渡ししている。その後も病院に伺い、看護師等から状況確認を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約する際に出来ることできないことの説明を行い、その他にも状態変化した際に説明し、ご家族様の意向をお聞きしながら意見を共有している。必要に応じて主治医、ご家族、管理者にて話し合いを行い今後の方針について検討している。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時において、家族の方にホームとして取り組めることを説明し、ホームの方針を理解して頂いている。また、利用中重度化が進んだ際には、家族、主治医と密に連携し対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を開催し、急変時の対応ができるようにしている。 事故発生時にも対応できるよう連絡網や緊急時マニュアルを作成し対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、避難方法を身に付けているが地域との協力体制までは行われていない。	災害時に備えた取り組みでは、年2回避難訓練を実施している。訓練では初期消火、避難、通報の訓練が実施され、全職員が安全に避難や消火の方法が身につけられるよう取り組んでいる。	災害時における近隣との協力体制が今後の課題となっているため、今後運営推進会議等を通じて協力を呼び掛けていく事も必要と考える。

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部の接遇マナー研修に参加し、参加者が伝達研修を実施することにより職員一人一人が意識して言葉かけが行われている	利用者に対して不適切な対応とならないように、外部の接遇マナー研修に参加をしたり、拠点会議や申し送り時に対応方法を振り返り、不適切な対応にならないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを工夫し、一人ひとりの能力に合わせた声かけを行い、出来る限り自分の意志が生活に反映されるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが食事の時間等柔軟に対応している。また、その都度希望を聞きながら一人ひとりのペースに合わせ生活ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理容を入れ、身だしなみを整えている。また、衣類もご本人に選んでいただき、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや調理、盛り付け、後片付けをスタッフと共に行っていただけるよう支援している。また、食事中は、スタッフも一緒にテーブルを囲み、会話しながら楽しい雰囲気です。	食事の準備や後片付けでは、利用者にも声をかけ、職員と一緒に取り組む事ができるよう支援している。食材は業者から届くシステムであるが、月に1~2回は、利用者の要望を踏まえたメニューとし、食材の買い物も利用者と一緒に取り組めるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を記録に残し、把握している。食材と献立の配達を委託することにより必要な栄養を確保している。また、一人ひとりの状態に合わせお粥、ミキサー食、刻み等になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には歯みがきを促し、できない方には介助にて口腔ケアを行なっている。異常がある場合は、週1回の訪問歯科に必要に応じて依頼し、治療を行っている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけの参考にしている。失敗時には声かけ、言葉づかいに充分気をつけプライドを傷つけないよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況については「排泄表」に記録している。日中は定時の声かけや誘導によりトイレにお連れし、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排泄パターンを把握し、運動や水分補給、食品を工夫し、自然に排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日ごとに分けているが、ご本人の希望や体調により好きなときに入浴できるよう柔軟に対応している。	入浴については、ある程度入浴できる曜日を決めているが、基本的には利用者の要望を尊重し、利用者のペースで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣に配慮し、温度や明るさなど調整し、安心して眠れるよう支援している。また、1時間に1回の巡視を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をいつでも確認できるようファイルにしてある。また、服薬時は名前を読み上げ、スタッフ、本人に確認していただくから服薬して頂き、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の会食会やホームの行事(外食会等)に参加して頂き、楽しみごとを作っている。また、趣味活動や日常生活の中での役割を持って頂き職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に配慮しつつ、散歩に出かけたり地域の会食会やお祭りへの参加、ホームでの行事でお花見や梅を見に行ったりし、外出する機会を作っている。	天候の良い日には、ホーム周辺の散歩に出かけたり、スーパーへ食材に買い物に出かけている。また、地域の「ふれあい会食会」への参加や近隣公園でのお花見なども取り入れ、外出できる機会を提供している。	

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族からお預かりし、本人の要望がある時、及び必要に応じてご家族同意のもと買い物している。また、ご家族ご了解のもと出来る方に関しては金銭管理を行なっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、事務所にて自由に使用して頂いている。手紙に関しては、届いた手紙をご本人に渡し、要望があれば散歩等の際にスタッフと一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は、過ごしやすい温度に設定し、居心地良い環境を整えている。また、花や行事の写真を掲示し、季節感が感じられる環境にしている。	利用者が集うリビングルームには、行事開催時の写真や季節に合わせた花などを装飾している。日差しが強い時はカーテンで遮光したり、室温に関しても過ごしやすい温度に設定し、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者で席を一緒にし、会話を楽しめるよう工夫している。また、ソファを設置し自由に使用していただき、活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは、馴染みのあるタンズや日常使用する茶碗、箸等持参していただいている	居室においては、自宅で使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く暮らせるよう配慮している。また、家具類の配置等も家族や本人の要望に沿って対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ることを把握し、ご本人の出来ることに関しては声かけをし、スタッフ見守りのもと、安全に配慮しながら行なっていただいている。		